

議長（滝内久生君） 質問順位3番、1つ、松木市長の1年を振り返って。

以上1件について、5番 矢田部邦夫君。

〔5番 矢田部邦夫君登壇〕

5番（矢田部邦夫君） 再興の会の矢田部邦夫です。一般質問の通告に従い質問をさせていただきます。

松木市長の1年間を振り返って、3つの項目について質問をさせていただきたいと思いません。

このたびの安全・安心を根底から崩してしまった大変重大なコロナ感染問題、下田市のイメージダウンとなり、市民の皆様方の生活と将来に向け、大きな不安を与えてしまったことは残念でなりません。長きにわたるコロナ禍ですが、先が見通せず、アルファ株、ベータ株、ガンマ株、デルタ株と変異を続け、一向に収まる気配が見えない中、静岡県に緊急事態宣言が発令されました。安全を確保するためのマスク着用、うがい、手洗い、不要不急の外出と三密を避け、自分のことは自分で守る自助が最も重要となりました。このたびの市政に対する一般質問に関し、ただいまから述べることを基となり、質問につながっておりますので、そのような点から耳を傾けていただきたく、よろしく申し上げます。

昨年、市長が就任されてから今日まで1年間にわたる市政について、私自身が感じてきたこと及び見解を述べさせていただくとともに、市民の意見、私自身の意見並びに気がついたこと、考え方の話をさせていただきたいと思いません。

私は、よりよい下田市を目指すため、市民の意見を基に、私なりの判断により言動、行動には責任を持って取り組んでいるつもりであります。事業を進めるに当たっては、段取りをしっかりと行わないと、市民の皆さんが混乱することになり、下田市が迷走することになると思っています。考え方は個々にそれぞれだと思いますが、一日も早くよい結果につなげ、成果を上げなければなりません。よい結果を出すためには、事業、何かを始めるときの手順として、いろいろな要素が備わった上で検討し、判断し、決断し、行動、実行に移すことだと思っています。この一連の流れの中で、判断力がとても重要になると思っています。結果が悪かったら考え方、判断が間違っていたこととなります。よって無駄が発生し無駄遣いにつながります。また、失敗する原因にもなるし、場合によっては取り返しがつかなくなることもなります。

今日までの市の政策の方向性、考え方、判断については、以前から私は疑問を持っております。市の重要な課題は、コロナ対策と並行し、新庁舎建設・ごみ処理場の問題解決ではな

かったんでしょうか、その点について、これからの質問を通し、お尋ねしていきたいと思えます。

下田市が変だ、おかしいと、現在の私の心境です。見過ごせる状況ではないと考え、一般質問を通し、あくまでも私自身の是々非々で判断し、意見を述べております。市民の皆さん方の考え、意見はそれぞれお持ちだと思いますので、判断していただけたらよいと考えています。よりよい下田市を目指すため、誰かが意見を述べていかなければなりません。それが私の責務です。前向きに捉えてほしいと願っております。それでは3点の質問をいたします。

1点目は、黒船祭について市長にお尋ねします。

基本理念として、下田開港の内外先賢の偉業を顕彰し、偉大なる功績を永遠に記念し、併せて世界平和と国際親善に寄与するとなっています。世の中全体がコロナ禍にあり、名古屋領事館（米国）と海上自衛隊から、5月10日に不参加の通知があった時点で、黒船祭を中止と決断できなかったのはなぜだったんでしょうか。

歴史ある黒船祭の方針を「市民による市民のための黒船祭」としたのは、基本理念に沿っていないのではないのでしょうか。それぞれの回答をお願いします。

2点目は、コロナ感染症対策について市長にお尋ねします。

当初、65歳以上の高齢者、40%強、約9,000名向けに一斉にワクチン接種の窓口を開いたため、市民の皆さん方に多大な御迷惑をかけて混乱し、パニック状態のとき、また、コロナ感染者が7月21日から増え続け、クラスターが発生しているにもかかわらず、なぜ市民向けにメール送信、テレビ出演、ホームページだけだったのか。リーダーシップが求められていたにもかかわらず、じかに市長自らの声で同報無線を活用すべきだったのではないのでしょうか。回答をお願いします。

下田モデルの産官学のそれぞれの組織はどこ組織なのか、また、その組織にした根拠と、新・下田モデル、3つの安心に取り組みますとあるが、なぜ3つの安心なのか、それぞれお尋ねします。

7月26日の全員協議会でも質問しましたが、再度お尋ねします。7月16日のライオンズクラブの例会に1次会、2次会に出席されたかどうか、また、どちらかに出席し、挨拶をされたのか、市民の皆さんは今でもほとんどの方が出席していると言っています。市民の方々から確認してほしいと要望がありましたので回答をお願いします。

3点目は、新庁舎建設及び現庁舎の安全について、企画課長にお尋ねします。これは先ほど大川議員と重複するところが多々ありますけども、一応再度お尋ねします。

今年度予算で現庁舎の安全性調査費450万円、新庁舎機能再検討費110万円、6月補正予算で稲生沢中学校の耐力度調査費500万円をそれぞれ計上し、実施されたと思われませんが、結果並びに今後の対応をお聞かせください。

市長にお尋ねします。

位置条例は、今回の議案で5年間に延長し、9年を超えない範囲、令和8年12月が期限となっていますが、5年に改正される意図と、また、今後の新庁舎建設計画はどのように考えていますでしょうか。今までは4年が期間だったと思います。

昨年度、市長は、新庁舎建設を立ち止まって延期されたことで、緊急防災・減災事業債の交付税が適用されなくなりました。よって、土地購入費は、位置条例が延長の予定となりそうですが、延長されても現時点では分かりません。しかし、設計費は延期したことにより償還、いわゆる借金となり、一般財源で支払いが発生しております。市長は、この責任はどのように考えておりますでしょうか、回答をお願いします。

以上、私の趣旨説明と質問といたします。

議長（滝内久生君） 当局の答弁を求めます。

市長。

市長（松木正一郎君） まず、黒船祭についてお答えいたします。

令和2年12月16日、黒船祭の執行会を開催しました。この時点では、規模の縮小、それから期間としては2日間、また、招待客は最小限とする、このような黒船祭の方針が決定されました。招待客を必要最小限としたことから、市民による市民のための黒船祭と、こういうふうなテーマを掲げることといたしました。その後、コロナ禍が長期間にわたり続いて、厳しい状況になりましたが、このコロナ禍だからこそ官民連携して、みんなでやろうということで準備を進めてまいりました。まさしく議員御指摘のとおり、直前まで何とか開催という方向で調整していったんですが、新型コロナウイルス感染症は、やはり未曾有なものでございまして、あいにく、その5月14日に県の警戒レベルが引き上げられました。これを受けまして、同日、黒船執行会を開催し、感染対策をどの程度まで徹底すれば安全なものができるのだろうかを皆さんと議論した結果、前日において中止という苦渋の決断となったところでございます。

しかしながら、コロナ禍は有識者の方が皆さんおっしゃるとおり、そう簡単には収束しない、そうした中で、市民の発表の場、市民が一生懸命、人に見てもらおうと思って練習していた様々なことの発表の場が、私たち行政的な判断によって、ほとんど中止に追い込まれて

おりました。そこで、やはり市民に元気を出していただこうと、そういうふうを考えておりました。市民による市民のための黒船祭も、まさにそういった考えをベースにしています。

それでは、その市民による市民のためのというのが基本理念とそごするののかという問題です。基本理念は、下田開港の内外先賢の偉業を顕彰し、偉大なる功績を永遠に記念し、併せて世界平和と国際親善に寄与するという、こういうものです。この基本理念は普遍的な価値だと考えます。

今、下田市としましては、このまちの魅力の1つとして、グローバルなまちにしようということを検討しております。これは昨年度に策定した教育大綱の中で、このまちの教育に国際化をしっかりと位置づけようという、こういったことから始まったものですが、このグローバルは、グローバルとローカルの合わせた造語でございます。国際性というものと地域性というものは、実は概念として表裏一体であろうというふうに考えています。つまり国際的な視点、あるいは行動というものは、自らのまちへの関心を伴うということだろうと思います。外国のことを知ろうとすれば、あるいは外国人と話をしようとするれば、自分たちのまちの歴史や、自分たちの国の特徴、そうしたものをしっかりと考えるようになる。つまり、市民がこの地域についてしっかり考えて、市民のための黒船祭としても、それは必ずや黒船の理念とどこかでつながってくるというふうに考えたからでございます。これまで脈々と受け継がれてきた様々な絆、あるいは市民の皆さんの思い、こうしたものを官民みんなで共有し、黒船祭の名の下で開催することが多くの市民から求められていたというふうに考えますと、必ずしも理念と合っていないということはなかろうというふうに考えます。

それから、私は前回の全員協議会においてもお答えしましたとおり、例会の1次会、2次会ともに出席しておりません。

以上でございます。

その他については担当課長から申し上げます。

議長（滝内久生君） 防災安全課長。

防災安全課長（平井孝一君） 私のほうからは、コロナ感染者が増える中、同報無線を活用すべきだったではないかという点と、新・下田モデルについて、ちょっとお答えさせていただきます。

同報無線は、放送を聞き取りやすくするため、ゆっくり、間隔を空けて話す必要があります。緊急情報をできる限り簡潔にお伝えできる場合は非常に有効な手段となりますが、放送内容が長文になると、長い時間、ゆっくり間隔を空けて話すことになるため、結局、何を言

っているのか伝わりにくくなるといった側面もございます。今回、コロナ感染者が増えた中、クラスターが発生した状況においては、より分かりやすく、丁寧に伝える必要があると判断し、その方法として、メール配信やホームページだけではなく、地元メディアの御協力により、市長自らの声を市民に届けたところでございます。

続きまして、新・下田モデルについてでございます。産官学の組織につきましては、産は観光協会、商工会議所等の市内各団体、官は下田市、学は東京大学大学院、大澤研究室を指してございます。その組織とした根拠として、市内各団体は下田モデルの取組の共有、周知、実施など、感染対策を推進する上で協働が必要不可欠であるためでございます。大澤研究室については、大澤教授が提唱する「ステイ・ウィズ・コミュニティ」の自分の生活のエリア外の人たち、コミュニティ外と呼んでおります、との接触をできる限り避けようという取組が感染症対策に有効と考え、連携を図ったもので、新・下田モデルにおいて下田コミュニティシステムとして取り組んでおります。

3つの安心については、こちらについては新・下田モデル、元の下田モデルから引き継いでいるものでございます。観光地である下田へは来訪者が多いがゆえに市民の不安も多くなります。そのため、下田モデルの取組によって、市民、そして観光客にも安心してもらうにはどのようにしたらいいか、安心をテーマに検討した結果、みんな安心、どこでも安心、そして、もしものときも安心との3つの柱にしたところでございます。

私からは以上です。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） 私のほうからは、庁舎関係の御質問についてお答えさせていただきます。答弁がダブる箇所もあると思いますが、御容赦いただきたいと思っております。

まず基本的に、新庁舎の建設につきましては、本議会に位置条例の一部改正を議案として提出させていただいておりますので、また改めて御審議のほうはお願いすることになります。そうした中で、新庁舎の建設に向けた様々な課題を解決、整理しまして、今回お願いをいたします条例案に向けて、建設位置は河内、令和8年12月までに新庁舎を整備し、開庁を目指すというスケジュールを想定しております。

御質問の1点目、令和3年度当初予算にあります新庁舎機能再検討調査業務委託につきましては、当初の計画で有識者会議と連携し、大学に依頼することを想定しておりましたが、新型コロナによる緊急事態宣言等によりまして有識者会議の開催が困難な状況が続いております。加えて、大学側の研究活動等にも一部制限がありますことから、現時点において発注

ができていない状態となっております。

また、6月の補正で計上いたしました稲生沢中学校の耐力度調査業務でございますが、7月に入札を実施、池田建築設計事務所・三島事務所と契約を締結し、現在、業務のほうを進めております。現地調査は8月の学校夏休み期間中に実施をし、現在は現地調査等の内容について解析作業を実施しております。こちらにつきましては、先ほど御答弁させていただきました、文部科学省が定めます教育施設の安全性基準と比べまして、使用は可能という形の中間報告は受けております。また詳細な結果が出次第、改めて御報告させていただこうと思っております。

こうした中で、今後の基本計画の策定等におきましては、現状の課題解決に向けた手法としまして、既存学校施設の活用も視野に入れながら、様々な検討を進めていきたいと考えております。

2点目の5年の延長とした根拠でございます。平成29年に位置条例を提案させていただいた際には、既に基本計画の策定が終わった状態で位置条例の審議をお願いしたところがございます。今回のスケジュールにおきましては、基本計画を含むスケジュールを見込んでおることから、おおむね基本計画の1年、こちらを見込んだ中で、5年ということをお願いしてるものでございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 財務課長。

財務課長（日吉由起美君） 私のほうからは2点ほど、お答えをさせていただきます。

まず、庁舎の安全性調査の結果と今後の対応についてでございますが、先ほども大川議員の御質問でお答えさせていただいた部分がございますけれども、繰り返しとなりますが、現在、現庁舎の安全性調査につきましては、新庁舎完成までの間、最低限の安全確保を目標として、耐震指標の調査、その結果に基づく補強案及びその概算予算の算出を業務内容として現在実施しているところでございます。その結果につきましては、まだ作業の途中でございますので、現時点では明確なお答えをすることができませんけれども、今後、その結果を受けて報告させていただきたいというふうに思っております。

それから2つ目の庁舎に係る緊急防災・減災事業債についてのお尋ねでございますけれども、既に2億2,680万円の借入れを行っております。現在もその償還が始まっているところでございます。また、交付税につきましては、その償還額、理論償還といいまして、償還額につきましては、交付税の需要額に算入されております。今後の緊防債の取扱いにつきまし

ては、事業計画の見直しと合わせまして協議をしていく予定でございますので、現在のところは償還しているということでございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 議長、申し訳ないんですが、3項目、僕、質問しておりますので、まとめてやるといろいろ難しくなっちゃいますから、1項目ずつ質問をさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

議長（滝内久生君） どうぞ。

5番（矢田部邦夫君） まず、黒船祭についてから行きます。この黒船祭は、先ほど市長のほうから説明がございましたけども、これは理屈じゃないんですよ、黒船祭というのは。ただ、僕が言うのは、私の考えですよ、あくまでも。黒船祭は伝統ある行事で、これまで歴代の市長、職員が歴史を重んじ続けてこられたと思っています。開国のまちとしてアメリカあつての大きなイベントだと理解しております。そういう点からいくと、この広報しもだに載った、市民による市民のための黒船祭というのは、僕はこれ、違うんじゃないかなというふうに考えております。アメリカに対して失礼に当たるんじゃないのかなという考え方も起こりますし。やはり黒船祭というのを、市民による市民のための黒船祭じゃなくて、ほかのものだったら、僕はまだいいと思ってるんですね。黒船祭というのは全国にもう知れ渡ってるわけですよ。学校でも勉強してきてるわけですから、子どもさん、子どもの頃。だからそういう点からいくと、下田のイメージダウンにもつながるんじゃないだろうかというふうな考え方があります。その点はどうでしょうか、市長にお尋ねします。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 歴史を重んじるという、そういったことは大変重要なことだと思います。私もそれを踏まえて、1人でですけども、玉泉寺のお墓に参ったり、それからペリーの上陸記念碑でもってアメリカの人たちへのメッセージをお読みいたしました。そして、それをDVDや資料としてアメリカのほうに送っております。アメリカといっても、在日米軍の横須賀の基地のほうにいらっしゃる方もいます。つまり、同じこの日本の中にいるところ、こういったこともやり取りをしまして、皆さんがコロナだったからやむを得なかったけれども、私たちの心は常に下田市とあると、こういうふうなお手紙を頂戴したところです。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 黒船祭については、私は今後、世代交代が進んでいくと思います。今ここで歴史を塗り替えるような行事にするというのは、非常に違うんじゃないかなというふうに私は思っております。だから、この黒船祭の行事は、アメリカあっての友好都市の関係で続けてこられているわけですから、相手あってのことです。これをやっぱり変更するというのはどうかなと私は思います。そういった意味で、アメリカが協力の下で黒船祭の歴史を守り、伝統行事として行政が基本理念に沿って継続されていくことを強く私は願っております。ぜひこの市民による黒船祭というのは、やっぱりタイトルが、どうも僕、分からないけど、市長は祭りが好きなようですから、そこらの発想かなというふうに僕、感じたんですよ、あくまでも。だから私にはこういう発想がないもんですから、そこら辺からの発想かなというふうに感じました。これ、私の意見です。回答は要りません、取りあえずあればお願いします。

〔発言する者あり〕

5番（矢田部邦夫君） いいですか、じゃあ続けて、議長、5番。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） じゃあ2点目のコロナの感染症対策について再質問をさせていただきます。先ほど防災安全課長から回答がありましたけども、今回の質問は全て市長に私、質問してるんですよね、担当課長じゃなくて。あくまでも松木市長の1年を振り返ってというタイトルで、口述書にそのように書いてあるわけですので、そのとおり僕はやっていただきたいと。

議長（滝内久生君） 質問者に申し上げます。当局の答弁は質問者に左右されません。当局の判断で答弁することとなっておりますので、その辺は遺漏のないように、お願いします。

5番（矢田部邦夫君） ちょっと分からないですね、そこは。私は口述書を事前に出してるわけですから、そのとおり流れがいくのが通常の流れじゃないのかなというふうに私は理解してるんですが。

〔発言する者あり〕

5番（矢田部邦夫君） だから今の回答はちょっと僕、議長、分からないですね。分かりません。

〔発言する者あり〕

5番（矢田部邦夫君） だって、これは私のほうから事前に出してるんですよ、口述書を。いいですか。それによって今の議長の回答というのは、私はちょっと、これ違うんじゃない

かなというふうに思う。時間がかかりますので、私、まだ質問がたくさんありますので、その件については。

〔「暫時休憩」と呼ぶ者あり〕

5番（矢田部邦夫君） おかしいじゃないですかね。

議長（滝内久生君） 質問を続けてください。

5番（矢田部邦夫君） 取りあえず、今の件については、僕は合点がいきません。

第2の質問に移ります。時間の関係があって、持ち時間が少ないですから先に進めますけれども、先ほどの問題は後でまたゆっくりあれします。

2点目のコロナ感染症対策についての質問です。これは、コロナ感染者が7月21日、3名、それから22日、23日、それぞれ9名の感染者が出てるときに、市長のほうでホームページに24日と26日にメッセージが掲載されております。それから22日から25日まで連休があったわけですね。この下田市の市民の方が非常にあたふたして動揺している重大なときに、市長がその21日からメッセージ、これ、メッセージって便利な世の中になったんですね、電子メールとか、そんなことでやれば、自分の声としてやっぱり出さなきゃ駄目だと思います、僕はトップとして。だからそういった意味で、同報無線をせっかく先ほど渡邊議員から話があった、9億円もかけて設置されたわけですから、何で自分の声で市民に対して、この21日から24日までの間、早急に手を打てなかったのか、その辺はちょっと分からないので回答お願いします。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 今、議員が御指摘なのは、質問の1つ目の、コロナ感染者が21日から増え続けているとき、そのパニックに対してと、こういうことでよろしいでしょうか。

5番（矢田部邦夫君） 21日から23日までの早めに手を打ってほしかったということです。

市長（松木正一郎君） 貴重な御意見だと思います。今後に生かしたいと思います。ありがとうございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） これは市長、危機管理ですよ、危機管理、そこが欠けてるんじゃないかなってしょうかね。私はそう思います。だからこういう意味で、市民の方が動揺されるときに、やっぱりパソコンとか、そういった電子メール、確かにデジタルで便利な世の中にはなりました。だけど、生の声でやっぱり、この電子メールとか何とかって、本人がつくってるかどうか、疑えば切りがないですけど、誰かが打ってる可能性だってあるわけじゃない

いですか。そういうことを考えたら、やっぱり自分の声で、トップですから、下田市の。私はぜひ危機管理の面で、今後ぜひその辺を対応してもらいたいというふうをお願いしたいと思います。

それから次の質問に行きますけど、産官学の問題。これはちょっと僕はよく分からないですけど、だったらもっと詳しく出せばいいじゃないですか、東京大学とか、そういうことで。私が一回調べてみたんですよ、一回どっかで聞いたような名前だななんて思ってたんですから。これ、去年のいつだっけ、1月に、賀茂キャンパスってあるんですよ、賀茂キャンパス。いいですか。賀茂地域大学交流拠点施設というのを開所してるんですよ。これは大学は静岡大学、静岡県立大学、静岡芸術大学と、大学が3校入ってるんです。あとは地元の観光協会とか商工会議所、そういう形で入ってるんですね。私が思うには、コロナの問題というのは、いろいろ後から僕、出てきますけど、その辺についてはちょっと私は違うような気がしたもんですから質問させてもらいましたけども、それで、そういう形で言うということであれば、それでもいいと思いますけども。ただ、私はこういう、これ、産官学の賀茂キャンパスのあれに載ってる、これ地域の広域事業として大学の協力の下で各市町の市長が打合せをやるような流れになってるんですけど、こういう流れのものがあるわけです。これを題材にしたのかなというふうに私は理解しました。

それから、下田モデルの先ほど防災安全課長から話がありました。この安心の問題、これ、ちょっと僕、違うんじゃないかと思っているんですけども、これは、みんな安心、どこでも安心、もしものときも安心の3つの安心になってるんですよ。安心したからコロナが発生したのかなと、逆に。129名も出てるんですよ、7日までに、7月21日から。これ、確かに僕、成功したとは思ってないんですね、僕自身は。この中で、一番大事なことは何かということですよ。安全じゃないんでしょうか。安全、先ほど、僕は冒頭で話した、三密を避けたり、これ全国共通のもので、これが基本になってるんです。そこで何で、みんな安心、どこでも安心、もしものときも安心、安心が先行しちゃうのかな。分からないですね。

それからもう一つは、コミュニティチェック、これ、東京大学の澤研究室。私、これ調べました、澤研究室も。ここは世界的に活動してる研究室ですね。だからそういった意味で、ほとんど下田の、どうなんだろうね、その辺はよく分からないですけど、私は、あくまでも私の臆測ですから、ちょっと違うのかなというような気がしてるんですよ、工学の研究室ですから、分野が違って来るんですね。医学関係だったら分かりますよ、まだ。

それともう一つ、ふだん会わない人とマスクを外した会食などを3メートル以内の距離で

5分以上した場合ってあるんです。今マスク外して、3メートルでも大丈夫なんですか。だから僕は、この下田モデルというのは非常に違うと思ってるんですね。

それと、もう一つは、下田のモデルカード、これ、盛んに市長、PRしますよね。これは下田モデルカード、市民向けに記入するように働きかけをされてきておりますけども、実際のところ、効果並びに成果がどのくらいあるのか、回答をお願いします。

議長（滝内久生君） 防災安全課長。

防災安全課長（平井孝一君） 安心か安全かというのは、それぞれの本当に個々の見解だと思います。安心があって、安全からあるからこそ安心できる。安心のために安全をつくる。それは個々の取り方で、私たちはまず、去年の夏にこの下田モデルをつくったときに、感染が広がる中、安心をしてもらいたいというのはまず前面に出てきましたので、安心という言葉を使ってもらいました。安全という言葉も1つ上がったことも経緯にはございます。

3メートル、5メートル以内というのが、一般的に言われてるのが、2メートル以内って、外でマスクを外すとき2メートル。それよりさらに対策を取ろうということで、あえて3メートル。もっと厳しく基準をつくって、守ろうというところで、できる限りという言葉を使っておりますけども、3メートルという距離を取らせてもらいました。効果につきましては、議員御承知のとおり、こちらは一方的で、実に活用されてなければ意味もございません。それはおのおの報道からも御指摘を受けて、議員のおっしゃるとおりだと思います。今、月に8,000枚程度増刷して、市内等に配布してるところでございます。それが一応、どっかの手元に配られているのはいるんですけども、それが本当に利用されてるかどうかというのは、本当にちょっと検証して、今後の役に立てていきたいと思っております。なので今、その利用の実態調査を今行って、その効果とか、そういったものについてまとめていきたいと思っております。

もう一つは、今最近、取り組み出したことは、小学生とか中学生、学校教育と教育委員会ともちょっと連携を図って、このモデルカードについて、子どもたちにもちょっと利用して、広めていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） このチラシは、課長、どこに配布してあります、スーパーでしょう。一般の市民の方、すぐ取れるところに置いてありますよ。この中の内容に、こういうふうなことが書かれてるということは、僕はやっぱり安全というのが大事じゃないのかなと、基本

ですから。安心して何が安心なのかということですよ。

それから、このモデルカード、これ、市長はよく気にしてて、いろいろ上のほうから言ってきます、指示してきますけども、多分、僕、書いてる人は少ないと思います。はっきり言って、このカード。だから本当にこれが活かされてるのかどうかということですよ。だから今は、先ほど僕が一般質問の口述で述べましたとおり、もう今、ここまで来ると緊急事態宣言でしょう。緊急事態宣言でこんなこと言ってる状態じゃないということです。もう自助なんですよ。自分のことは自分で守るというのは、もう皆さん、市民、心得てるんです。誰に言われてやるとかというときじゃないと思います、僕は。防災と一緒にじゃないですか、課長。自分のことは自助ですよ。自助、共助、公助ってあるでしょう、自助だと思いますよ。そこはひとつ、ぜひお願いしたい。

それから、僕はこの下田モデルには問題点があると思うんですね。それは私の考え方ですから、いろんな考え方があると思いますけども、5項目出しております。

1つ目は、コロナ対策は国の事業として、47都道府県、自治体への援助があるため、市はコロナ対策事業として行われているわけですよ、現実には、コロナ事業で、国からの援助で。

2番目として、コロナはアルファ株、先ほど申し上げましたように、ベータ株、ガンマ株、デルタ株、ラムダ株、ミュー株と今日、変異してきてるわけです。下田モデルは定着、一定のところにいるんですけど、コロナは変異して、どんどん進んでるんです、そうやって。いいですか、そこをまず考えてもらいたい。

3番目としては、下田市のコロナ感染者数は、9月7日現在、ついこの間ですよ、下田市で143名です。7月21日からは129名となっていること。緊急事態宣言が発令されている事態のときに、下田モデルなんて、そんな悠長なこと言われるのかなというふうに僕は思います。

それから4番目の、産官学による新・下田モデルの3つの安心となっているが、全国の共通の基本となる安全が抜けている。安全とは、三密を避ける、手洗い、うがい、不要不急の外出、マスク着用じゃないですか。

5番目としては、感染防止の目安として、マスクを外した状態での接触は3メートル以上離れ、5分以内を心がけてくださいとなっているが、この状況の中ではマスク着用は欠かせないんじゃないでしょうか、今の状況は。だから流れが変わってきてるということですよ。だから下田モデルって1年前からずっとやってきて、こう流れてるけど、新・下田モデルにはなっているけども、コロナの株の変異株についていってないわけですよ。そこら辺のこと

について、僕は正直言って、私の考えとしては、下田モデルの成果もはっきりつかめないし、現在のコロナ状況、これから見通しも立たない中、やっぱり自分で自分のことは守る以外ないと思ってるんですね。そういった点からいくと、下田モデルにシフトしたというのは、ちょっと僕は違ったんじゃないか。やらなきゃならなかったのは、後から出てきますけど、庁舎建設が喫緊の課題だったんじゃないのかなというふうに理解してるんですけど、その辺、回答をお願いします。

議長（滝内久生君） 質問者にお尋ねいたします。ここで休憩したいと思いますですが、よろしいでしょうか。

5番（矢田部邦夫君） はい。

議長（滝内久生君） 2時20分まで休憩します。

午後 2時 5分休憩

午後 2時20分再開

議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

当局の答弁を求めます。

市長。

市長（松木正一郎君） 防災安全課長も答弁いたしますが、その前に私のほうが骨格的なところについて申し上げます。

先ほどの安全と安心というお話がございました。今でもいろんなところでよく安全・安心という言葉が並列で使われています。最近になって安心が先になって、安心・安全というような言葉になっています。先ほど防災の課長も申し上げましたけども、安全というのは、どちらかというとインプット、アウトプット、つまり何かの取組のことを指します。安全に向けてこういう取組をやりますと。安心というのは、その結果、私たち市民が感じられることであり、アウトプットが安全だとすれば、安心はアウトカム、つまりそういったことをやった結果、どうなったのかということになります。何を目指すのかということ、アウトプットよりもやはりアウトカムのほうが望ましいだろうということで、安心を前に出しております。

今、政府が専門家会議の意見を聞きながら進めているコロナの収束に向けた取組の工程表としては、ワクチンの普及を進め、それをもって、例えばワクチンパスポートとか、その個

人的な情報を活用することで社会の平準化を目指そうと、こういうふうなことであって、ですから11月ぐらいにはできるんじゃないかということをおっしゃっています。

ちなみに下田市は既に1回目のワクチンだけで言いましたら八十数%、2回目まで済んでる方でも、もう70%を超えています。つまり東京が目指しているところ、既に私たちの地域では一定レベル、クリアしてるというふうに言えます。それでもやはり私たちはいろんなことをすべきだと思います。それは議員、御指摘のとおりだと思います。自分で守ることが大事だとおっしゃいました。この下田モデルカードは、自分の健康管理、さらに自分の行動についてもしっかりチェックしていこうということです。ある意味、自分の行動を縛ることにもつながるというふうに考えています。

ここに書いてある、マスクを取ってしゃべった人の数を書け。具体的に言うと、どういうことかといえば、東京に出ていって働いている息子が帰ってくる。親としては一緒に御飯を食べたい。そういったことを想定しています。あるいは仕事でどうしても人と一緒になって、その人と食事をする機会もある。そういうふうになったら必ず書いてくださいということです。なぜそういうようなことをやってるかということ、基本的にはこの下田というまちをやはり持続可能にすること、この目的です。2つの意味で、1つが健康で、もう一つが経済です。

この夏もある程度のお客様が来てくださいました。一昨年度比で、海水浴場は6割程度減の4割程度になってるというふうな数字がございませけれども、そういった、今この夏でも来てくださるお客様の多くが、実は首都圏からのお客様です。緊急事態宣言が出されているエリアから、緊急事態が宣言が出されているこの下田に県境をまたいで来ている。不要不急の外出をしないようにというメッセージに、あえて言えば反している人々に依存してるのが観光のまち下田のつらいところです。したがって、こういう方々が来ても大丈夫にしなければいけない。排除するのではなく、きちんとそういう方を受け入れながらも安全・安心に向けていくということで、この下田モデルというものは設計されています。

蛇足になるかもしれませんが、東京大学のこの大澤先生は、この下田の取組に対して非常に高い評価をしてくださっていて、しかもこれは内閣府も今、注目してるというふうに聞いています。それは大澤先生が内閣府と話をしているからでございます。

これからもこうした個人が健康管理と行動管理をしっかりやって、ウイルスが消えてなくなるわけではないので、安全な観光地になるよう、そして人々が皆、安心できるように目指してまいりたいと思っております。

以上です。

議長（滝内久生君） 防災安全課長。

防災安全課長（平井孝一君） すみません、市長のほうからほとんど申し上げてもらいましたが、この下田モデルがやってる場合じゃないというような御意見がありましたけれども、こちらについては、下田モデルは去年の夏から取り組んでおりまして、今年の新・下田モデルについては、また夏を迎えるに当たって、さらに強化して取り組んでいこうという趣旨で行いました。遅くなったことが申し訳ないんですが、これを発信したのが7月20日、それまで下田市は順調に感染者を極力、抑えられてた状況でございましたので、さらに夏に向けて感染者を抑えるために、矢田部議員もおっしゃるように、自助として、この趣旨であるコミュニティシステム、外部の人たちの接触をできるだけ避けようというのはまさに自助の取組だと思っております。これを浸透させることによって感染を防ごうと思いましたが、残念ながら、その配布した後にちょっと感染拡大が起こってしまいました。

なので、今、私が考えてるのは、またこれをちゃんと収束した後は、また新たなコミュニティができると思いますので、感染拡大中はいわゆるコミュニティが破壊してしまった状態で、家族でも安心できないという状態だったと思います。今やっと落ち着いてきましたんで、これを守って、皆さんが自覚ある行動を取っていただければ、今後、下田市がもし仮に観光客が来ても、ちゃんとした行動を取ってれば感染も防げているかと思っておりますので、それにつきましては今後進めていきたいと思っておりますので、御理解、御協力、お願いいたします。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 見解の相違かな。いろいろ考えてみて、下田モデル、いろいろ困ったときはどうするか。これ、基本に返ることなんですよ、基に、原点に。だからそういうことからいくと、今の緊急事態宣言と、世の中の状況を考えてみた場合に、私はちょっと違うのかなというふうに考えてるわけですから、これは考え方が違う面が出てきますんで、いつまで話しても平行線になると思います。

ただ、私がちょっと心配して懸念してるところがありますので、それをちょっと話させてもらいたいと思います。これまでの質問で、黒船祭への問題点、下田モデルの問題点について、何でこのような質問をしなければならぬのか、私自身が疑問を感じております。これは市長と各課長の政策会議の中で解決できることだと私は思っています。政策会議はうまく機能しているのだろうか。市長の一方通行なのか、表に出てくる内容が、首をかしげるこ

とが最近特に増えているように感じています。市長と各課長の話し合いがしっかりできていれば、出てこない内容でもあると思います。市長は1年目、各課長は30年以上の行政経験があるのだから、下田市をよくするためにも、各課長、職員に自由に発言できる体制、それを僕はやっていただいて、その上で判断をして、いろんなことをやっていくのがいいんじゃないかというふうに考えております。その点について、もし意見がございましたらお願いします。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） いわゆるトップダウンのやり方、あるいはボトムアップのやり方というのがあります。危機に当たってはトップダウンでないとスピードが図られないと、こういうふうなことがございます。この下田市は比較的コンパクトなまちで、そのコンパクトなまちの中で政策会議という、その中心的な関連する課長だけを集めて、三役と一緒に議論するという場が、下田市では毎週1回、開かれております。私はどちらかということ、万機公論という、そういった立場ですので、皆さんの意見を聞きながらやっていくほうです。今の五箇条の御誓文の1つを今、申し上げましたけど、私は実はもう一つの、上下心を一にして盛んに経緯を行うべしでしたっけ。そうやってみんなで、明治時代ですから上下、上と下と言ってますけど、今は官民とか、産官学とか、それぞれの立場が水平方向に手をつないで、そしてみんなでこのまちをしっかりとやっていくと、そういう方向でこれからも進めてまいります。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 今、市長の回答をいただきましたけども、私は市長がよく言われるワンチームというの、これはあり得ないと思ってるんです。なぜならば、議会は役割が違うじゃないですか、当局と。そこを1つにまとめるというのは、これは無理がありますよ。それで、まちがよくなる方向だったら、私は異論ないです。でも今の状態を見て、非常にさっきトップダウンということ言われましたけども、僕はそこをちょっと心配してるんですよ。

じゃあ、このカードのこと、1つ事例出すと、これが本当に徹底されるかどうかということですよ、市民の皆さんに、みんなにね。これをそのまま書いて、記録を続けてくれるか。これ、継続はすごく難しいことですよ。なかなかできないと思います、僕は。それだったら、やっぱり自分のことは自分で、緊急事態宣言で、こういう状況ですから、自分たちが一人一人が気をつけてるんですよ、今、外出も。あるいは飲みに行くのも気をつけてるじゃないですか。そういうことが物すごい大事だというふうに私は言えると思います。

では続けて、庁舎建設についてちょっとお話をお聞きしたいと思います。

庁舎建設は先ほどお話がありまして、大川議員と私、ダブってるところがありますので、ちょっと私の話を先にさせてもらいますと、昨年12月の4日にこの庁舎の内容が載ってるんですね。この中で静岡大学の原田准教授の話が、コメントが載っております。実は、私、去年の12月21日に静岡大学の原田准教授のところをコンタクトを取って、訪問して、いろいろ話をさせていただいてきております、1時間くらい。そのきっかけは、この記事が元で行ったんですけど。ただ、そのときに、内容についてはちょっと触れませんが、私はこれは後でまた話が出てきますので、今はその話だけ報告しておきます。原田准教授と1時間くらい話をさせていただいております。

先ほど、大川議員の質問に対して、現庁舎の450万円、それから何だっけ、もう一つ、110万円がありましたよね、その件については回答をいただきましたので分かりましたけども、ちょっとやっぱり回答が出た段階で、ぜひ議員の皆さんに報告というか、結果を教えてくださいたいと、それはお願いいたします。稲生沢中学校の500万円についても同じです。ぜひお願いします。

それから、大川議員の質問の中で市長の答弁がありました。2つの答弁がありましたけども、1つは命を守るという話ですね。そしてもう一つは、経済対策でコロナの問題に関しての回答だったと思います。私は、この問題は、皆さん、誤解されては困りますけども、緊急防災・減災事業債というのは、去年の12月に5年間延長されたわけですね、5年間。しかし、その前に緊急防災・減災資金というのは、土地の購入費、1億4,400万円、それから設計料、8,240万円というお金が支払われているんです。支払われるというか、かかっているわけですよね。その問題で、私が一番気にしてるのは、去年の12月までに入札をして、3月までに着工すれば、今、支払いが始まっているという、先ほどの課長の回答がありましたけども、交付税が出ればよかったんですね。ところが延ばしたこと、延期したことによって、交付税が出なくなったわけですよ。それによって、土地のお金は位置条例で変わらないから、これから今後どういう展開になっていくか、私はまだ今のところ皆目分かりませんが、設計費というのは8,240万円というのは、これは完全なる借金になっちゃってるんですね、一般財源の。その点、間違いはないですか、回答お願いします。

議長（滝内久生君） 財務課長。

財務課長（日吉由起美君） ただいまの御質問でございますけれども、現在のところ、設計、それから用地費に関して合わせて2億2,680万円借入れをしまして、現実に償還をして

おります。繰上償還のお話をさせていただいたことがあるかと思うんですが、今の例えば実施設計、用地を全てやらないといった場合に繰上償還が発生するというお話をしていただいていると思うんですが、今のところと申しますか、今回条例の延期のほうも出させていただいていますし、実施計画のほうも極力使うということで、今までお話をさせていただいていますので、今のところ繰上償還は発生していない状況でございますので、交付税につきましても、今の償還分について7割程度、交付税のほうに算入されている状況でございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 土地の用地費、これについては位置条例で変更がないわけですから、私はそれがどういう展開になっていくか、これから見定めていかないといけないと思いますけども、設計費というのは、もうこれ、使っちゃってるんですよ、既に。この設計がもう今後、庁舎建設でそれを使うということはできないと思うんだね、僕は。考え方として、設計費の8,240万円というのは、これは完全なる僕は借金になってるんじゃないのかなというふうに理解してるんですけど、先ほどの課長の説明だと、そこら辺は何ていうんでしょう、まだ分からないような話がありましたけど、私はそこ、ちょっと理解できないんで、もう少し時間かけて見ていきたいというふうに考えております。

それから、あと企画課長の話で、事業費の抑制という話が出ましたけども、これは、もう去年の時点で総事業費が高いというのは、もう分かってたことなんですよ。この総事業費を抑えるというのは、もうこれ、ポイントだったんですよ。そのポイントが分かっているながら1年間、それらしき動きがなかったというのは僕は非常に残念でならないんですね。この間も、去年までの庁舎建設の話が出てたときに、何がネックになってたかといったら、総事業費の39億円だったでしょう。それでみんなが心配して、総事業費の下げること。私が思うには、はっきり言って、本当にやる気があったら3年でできますよ、私の考えとしては。総事業費を抑えて、やり方を考えればいいじゃないですか。そんなに5年も6年もかけてやるような事業、今まで何年かけてやってきたんですか。そこら辺のこと、ちょっと分からないんで、回答お願いします。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） 先ほどお答えをさせていただきましたスケジュール、あるいは条例の案につきましては、一応、期間の最長の期間を示しているものでございます。現状、緊防債の活用が令和7年までという規定の中で、それを一応、目いっぱい使う、そこを1つの

目安としたいというのがスケジュールの案でございます。当然、矢田部議員のお話にありますように、事業費の問題もありますし、あるいは庁舎の当初の問題であります災害からの安全性ですとか、庁舎自体の安全性、そうした様々な、そもそも庁舎の建設の計画のスタートの話がございますので、当然、今後のスケジュールの調整の中で、詰めれるものは当然詰めなければなりませんので、そちらについては上限といいますか、最長の期間を示させていただいて、その中で今後の様々な調整で短縮を図っていくという考えで進めていきたいというふうに思います。

先ほどもお話ししましたように、今後、1棟集約ももちろん案としてあります。ただ、中学校を使った案とか、様々なちょっとパターンが出てきますので、そうしたものを検討する中で、スケジュールの短縮についても当然1つの課題として考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 庁舎建設については、もう10年以上やってるんだよね、現実に関日まで。まだこれから先、令和7年までかかるなんていうのは、これ緊防債が5年延長されたことに照準合わせて5年ということを言ってるのかなというふうに僕は理解しちゃったんだよね。それ現実、違うと言うでしょうけど、当然。でもやっぱり、これ本気でやる気あったら、もう10年以上やってるんですよ、本気でやって取り組んだら3年あったらできますよ、これ、着工までは。私が思うに、私の経験で。だからそういったことからいけば、時間かけ過ぎ。要するに時間かけるということは、それだけ費用がかかるわけです。建設だけに限らず、ほかの事業においても金がかかるということですよ。それだけ無駄な費用が出ていってるといふことの現実をよく見極めてほしいと。何でもそうだけど、事業が物すごく長い。やれることも長く時間かけてやるというのは、これはそれだけ金がかかると。そこはちょっとぜひ考えていただきたい、今後、それをお願いしたいと思います。これ、やっぱり市民の税金ですから、自分のお金じゃないんで、特にやっぱりそこら辺のことについてはきちっとした対応、考えの下で取り組んでいただきたい。特に行政の方、お願いしたいというふうに私は思います。

もう質問しても多分平行線ですから、最後の終わりに、ちょっと私のほうの話が少しありますので、それを最後の締めくくりとして終わりたいと思います。

終わりに、松木市長の1年間を振り返って、黒船祭、下田モデル、庁舎建設と私の見方、

考え方を述べてきましたが、私の中では随分無理があり、無駄遣いにつながったと判断せざるを得ませんでした。

先月、静岡新聞の記者の記事によると、場当たりの、やってる感とありました。私は市民に対し、思わせぶりもあるかと私は思っています。というのは、先ほど原田准教授の話をしましたけども、専門家、有識者、大学と、外部の方を多用するところは参考にはなると思いますが、仕事は停滞し、時間もかかり、費用もかかることにつながると思います。あまりそのような方々に頼らないで、地元は地元、目の前の諸問題解決に目を向けてほしいと願うばかりです。まずはコロナ対策に並行し、市民、職員の安全確保、危機管理、一日も早く市民の期待している新庁舎建設を前へ前へと進めていただきたい。しっかり地に足をつけた下田市の市政に取り組んでいただくことを期待して終わります。

以上です。

それから最後に、先ほど議長のほうから、各課長の質問ということがありましたけども、それ、ちょっと私、理解してないので、またちゃんとした形で回答をお願いします。

議長（滝内久生君） その件については、我々が参考してる判断の資料がございますので、今ここでお配りします。ちょっと待ってください。

暫時休憩します。

午後 2時40分休憩

午後 2時45分再開

議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

ただいま当局の答弁者に関することで御意見がありましたので、私の発言の根拠をお手元に配付させていただきました。これは自治日報社発行の「議会運営の実際」というところにあります。1枚めくっていただいて、質問議員が通告書に書いた答弁を求める者に長や議長は拘束されるかという問いです。その問いに対して、誰が答弁するかは執行機関が判断するとあります。これを根拠に私はそのように発言をいたしました。

以上です。

この件については、各議員、またよく研究していただきたいと思います。

5番（矢田部邦夫君） ゆっくり読んでみます。

議長（滝内久生君） これをもって、5番 矢田部邦夫君の一般質問を終わります。